

English cafe vol.9

Special edition

CONTENTS

世界へ発信！気分はYouTuber！ 千葉啓太・・・2

4技能5領域の統合的な英語力の
育成を目指したRetelling活動 高橋アキラ・・・4

英語学習を楽しむ場の創作 平出 大・・・6

Special message

日々夢を持って授業を楽しんでいますか！

菅 正隆

KAIRYUDO

世界へ発信！気分はYouTuber！ ～やる気の出る状況設定とパフォーマンステストを通した英語で表現する授業～ 福島県立相馬農業高等学校 千葉 啓太

1 はじめに

教科書を活用して英語を学習するのであれば、聞いたり読んだりした題材について、最終的には自分の英語で話したり書いたりできるようにしたいものです。そうすることで題材について考えたことが生徒の心に落とし込まれ、血肉となり、生きる力になると考えます。また、主体的に学んだり、英語で表現したりするには動機付けが重要であると考えます。それらの点を踏まえ、やる気を持って学習に取り組み、生きる力が養われることを目指した私の推しの授業をご紹介します。

2 英語はまずはインプット

～教師がやって見せ、生徒に学ばせて～

Lesson 8 Sapeurs (Amity 1) の場合、サプールは多くの生徒にとって初見の題材であり、興味を持たせる授業の導入が必要になります。コンゴ共和国の情勢や地理的な特徴などを解説した後、PowerPointを用いてLesson全体を通したオーラル・インタラク션을行います。そしてその時に教師が行った導入こそが、単元の終了後に生徒ができるようになってほしい姿であることを伝え、学習のゴールのイメージを持たせます。オリジナルのワークシートを利用し、Partごとに新出語句の練習や概要把握、内容理解と文法練習のための活動を行います。



＜図1＞ 教師が発信者のモデルとしてオーラル・インタラククションを行っている場面

他のLessonでの指導と同様に、まずは英語の学習に不可欠であるインプットとインテイクのための活動を行います。

3 学んだことをアウトプット

特にサプールは、単なる内容理解やインプット活動で終わってしまってもったいない題材であり、知らなかった生徒が多いことから、YouTuberとしてサプールの素晴らしさを英語で世界に発信するという状況設定を行います。発信の方法として、写真とキーワードが記載されたPowerPointのスライド（教師がオーラル・インタラククションで使用したもの）を使用したりリテリングを行い、最後に自分の感想を話すことを伝えます。そしてその活動は動画で撮影をすることとパフォーマンステストになることを説明し、生徒はYouTuberとしてリテリングの練習を重ねます。そして自分の感想を表現するためにはテキストに戻る必要があり、再度リーディング活動が求められると共に、事前に準備させることでライティングと統合した活動を行うことができます。

The Last Summary	
●Level 1 ● 読者の目線から読み取る In a suburb of Brazzaville, people enjoy their fashionable clothes. They are not in the mood to wear casual clothes. They buy expensive clothes in every fashion. In the history of Republic of Congo, they had many wars. For their peace, sapeurs own fashionable items. They don't fight because violence damages their clothes. "We should stop to despise them, not in military shows," a sapeur says. Sapeurs are respected as a symbol of peace.	●Level 2 ● 読者の目線から読み取る In a suburb of Brazzaville, people (a) their fashionable clothes. They (a) not fashion models and (a) (a) sapeurs. They (b) expensive clothes in (a) fashion. In the history of Republic of Congo, there (b) many wars. For their peace, sapeurs own fashionable items. They don't (c) because violence (d) their clothes. "We should (e) in military shows," a sapeur (a) (a) (a) as a symbol of peace.
●Level 1 ● 読者の目線から読み取る In a suburb of Brazzaville, people (a) their fashionable clothes. They (a) not fashion models and (a) (a) sapeurs. They (b) expensive clothes in (a) fashion. In the history of Republic of Congo, there (b) many wars. For their peace, sapeurs own fashionable items. They don't (c) because violence (d) their clothes. "We should (e) in military shows," a sapeur (a) (a) (a) as a symbol of peace.	●Level 2 ● 読者の目線から読み取る in a suburb of Brazzaville people / fashionable clothes they / not fashion models / called sapeurs they / expensive clothes / enjoy fashion in the history / Republic of Congo / they / many wars for their peace / sapeurs / fashionable items they don't / because violence / their clothes we should / in military shows / their clothes we enjoy / despise / not in military shows sapeurs / respected / a symbol / peace

＜図2＞ スモールステップを踏みながらリテリングの練習ができるワークシート

これらのスモールステップを踏むことで、英語の苦手な生徒も安心してパフォーマンステストに臨むことができるようになります。



＜図3＞ スピーチの流れを確認し、自分の感想を準備するためのワークシート

4 パフォーマンステストと評価 ～ほめてやらねば英語は続かじ～

発表はペアになり、タブレットを使用して動画を撮影します。最初のパフォーマンスを各自で振り返り、教師がアドバイスを与えるなどの中間指導を行うことで、生徒は2回目の撮影に臨みます。動画としてデータが残るため、一斉にパフォーマンステストを実施できることと、評価基準を共有すればALTを含めた複数の教師で評価できるメリットがあります。



＜図4＞ 生徒が自分のタブレットで発表し、パートナーが動画で撮影している場面

テスト実施前に生徒に対して評価基準を示しておけば、達成度を確認することができ、できるようになった点については生徒をほめることができます。生徒は英語を自分で伝えることができた達成感が得られることと頑張った点を評価されることで次の学習の動機を高め、英語の学習を前向きに続けられるようになるのではないかと考えます。



＜図5＞ 生徒がYouTuberとして、写真とキーワードをもとにリテリングをしている動画の一部

5 おわりに

パフォーマンステストを実施したクラスで行った独自の調査では、パフォーマンス課題を通して話す力がつくと実感できた生徒は73.7%でした。また、中学生の時に英語が好きだった生徒は10.5%でしたが、高校で英語が好きな生徒は84.2%まで増えました。英語の学習は、言語習得上の点や使用者としてより多くの人々とつながって生きていく点、英語を通して様々なことに触れていく点において、生涯にわたって学習を継続していくことが理想的ではないかと考えます。やさしい英語で書かれたAmityでの学びを通して、英語の楽しさに気づき、卒業後も学び続け、生徒自らが生きる力を育んでいけることを願っています。

教科書を活用した私の推しの授業

～4技能5領域の統合的な英語力の育成を目指したRetelling活動～ 岩手県立花北青雲高等学校 高橋アキラ

1 はじめに

私が提案するのは、「Retellingの発表」をゴールとした授業です。英語の4技能5領域を統合的に伸ばしながら、教科書本文の内容理解と表現力を深めることができる、私のおすすめ授業展開のひとつです。この授業では、教科書の英文を活用し、特にOverlappingやShadowingといった音読活動を取り入れ、生徒の言語感覚を高めながら、最終的に自分の言葉で内容を話す力を養います。RetellingやOverlapping、Shadowingはすでに一般的な指導法となっていますが、教科書活用の一環としてあらためて紹介したいと考えています。

使用教科書は、開隆堂Amity English Communication IIで、黒板にはデジタル教科書を投影し、生徒は紙面の教科書も使用しています。

2 授業実践

【ステップ1：ゴールの共有】

最初に、本時の授業のゴール「Retellingによって、スクリプト無しで本文の内容を自分の言葉で発表すること」を明確に伝えます。Retellingの目的が、「内容を自分の言葉で言い換えることで、自然な英語表現や語彙の活用が促されること」、「要点を整理し、順序立てて話す必要があるため、論理的な思考力も身につくこと」にあることも伝えます。

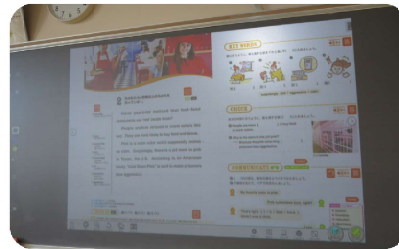
【ステップ2：Listeningと新出単語】

まずは教科書の本文のListeningをし、それから新出単語の発音練習と意味の確認をします。

【ステップ3：Overlapping】

Overlappingは、音声を聞きながら英文を同時に音読することで、リスニング力とスピーキング力を一度に向上させる学習方法です。私はこの活動を何度も繰り返させます。音源の後にRepeatingさせると、大抵の場合、生徒は平坦でリズム感のない棒読みの音読になってしまいます。

しかし、Overlappingであると、英語のリズムにのって読むことができます。そして、音源は止まらないので、ネイティブのスピード感も身につけてきます。また、音声の流れれており静寂ではないので、生徒は恥ずかしがらずに音読しやすくなります。当デジタル教科書では、マイナス5からプラス7まで速度を変えることができるので、最初は遅く、そして段々速くしたOverlappingに取り組むことができます。



＜図1＞ 黒板に投影したデジタル教科書

【ステップ4：Repeating】

気を付けたい発音やリエゾン（音のつながり）などの再確認をします。発音はネイティブスピーカーの映像を見ながら練習をすることも多いです。

【ステップ5：True/False Questions】

教科書本文に掲載されているリスニング問題を使い、True/False Questionsをします。スピーキング活動前の導入確認としての内容理解の他、Falseの文については、「なぜ間違いなのか」その理由を説明させることで、論理的に考える力や批判的思考力も養えます。

【ステップ6：Dictation】

教科書本文に掲載されているリスニング問題を利用して、Dictationをします。音声を聞いて正確に書き取ることで、英語の音に慣れることができます。特にリエゾンや脱落、弱形など、自然な英語の聞き取りの向上に有効です。

【ステップ7：Shadowing】

Shadowingは、本文を見ないで音声を聞いて、音源の後1～2語遅れて、影（shadow）のように声に出して追いかける音読活動です。流れてくる音声を忠実に再現することで、リエゾンやイントネーションなどが理解できるようになり英文にも慣れることで、スピーキング力やリスニング力の向上が見込めます。これも、デジタル教科書で速度を変えることができるので、最初は遅く、そして段々速くしたShadowingに取り組みます。Shadowingの意識づけのために、別日に、Shadowingのテストも行います。生徒は何も見ずにヘッドホンで音声を聞きながら発話します。教員は、音声の流れに従ってパソコン上のデジタル教科書の本文に色がついて流れていくので、音源を聞かなくても生徒がどこを読んでいるかがわかります。

【ステップ8：Retellingの準備と練習】

いよいよRetellingの準備ですRetellingは、生徒が聞いたり読んだりした本文の内容を、スクリプトを見ないで自分の言葉で再現する活動です。英語力の統合的な向上に役立ち、特にスピーキングや理解力の育成に効果的です。

教科書の内容をもとに、自分の言葉でストーリーを再構成していきます。最初に教員がモデルを示し、キーワードと写真を黒板に投影することで、生徒の表現を支援します。最初は個人で練習し、慣れてきたらペアで発表の練習を行います。

【ステップ9：Retellingの発表】

生徒一人ひとりがキーワードと写真だけを見ながら、Retellingをグループ発表します。1人30秒～1分程度で進めます。聞いている生徒も評価シートを使ってフィードバックを行い、発表を応援する雰囲気を作ります。

【ステップ10：Retellingのまとめ】

最後に、生徒は自分が発表した内容をプリントに書いて振り返ります。教員はこれを回収し、ALTとのダブルチェックで添削してから返却をします。後日、Retellingのパフォーマンステストを行う場合もあります。

3 おわりに

この授業の魅力は、教科書を使いながら、生徒が「聞く・読む・書く・話す」という4技能5領域をバランスよく行える点にあります。特にOverlappingとShadowingは、英語を「音」として捉える感覚を育て、Retellingではそれを「意味ある発話」へと昇華させます。また、最終的な「発表」という明確なゴールがあることで、生徒の学習意欲が高まり、達成感を得ることができます。「できた!」という体験は、英語学習への前向きな気持ちを育てる大きな要素です。日々の授業の中でも取り入れやすく、生徒の英語力を自然に伸ばせる実感があります。ぜひ多くの先生方に試していただきたい授業実践です。今後の目標は、「生成AIを活用した4技能5領域の統合的な英語力の育成を目指したRetelling活動」を実践することです。

大出平

Special message

日々夢を持って授業を 楽しんでいますか！



菅 正隆 (KAN Masataka)

大阪城南女子短期大学 学長
大阪総合保育大学短期大学部 部長
大阪樟蔭女子大学 名誉教授

2024年10月17日、福島県郡山市出身の西田敏行さんが多くの人に惜しまれながらこの世を去りました。生前、西田さんは俳優という職業について「夢を持たない人（俳優）は、人に夢を与えられない」と語っていました。数多くの人に夢や希望を与え続けた西田敏行さん。あの世でもきっと多くの人に夢や希望、そして笑いを与え続けていることでしょう。

この言葉を耳にした時、私は先生方が夢を持って授業に臨んでいるのだろうかという疑問に思いました。そして、俳優さんのように日々の授業で生徒達に夢や希望を与えているのだろうかとも考えました。

教員に求められるものは非常に多岐に渡っています。国は給与の増額などで対応する構えですが、問題の根本はそこにはありません。我々教員の使命は、授業を通して生徒の学力や生きる力を伸ばさせることです。教師は何でも屋ではありません。教えるプロ集団なのです。それを阻害するファクターを国や行政が少しでも取り除いて、真

に授業のできる環境を作り出すことが使命なのです。

私は、高等学校を皮切りに40年以上に渡って英語教員を続けてきました。現在でも短期大学の学生に夢を持って楽しい(interesting)授業を実践しています。以下は長きに渡り身に付けてきた英語教師としての生き残る術、極意です。

1. 夢を持って授業を楽しみましょう
(嫌なことがあったら授業に逃げ込みましょう)
2. 楽しんでいる生徒の笑顔に癒されましょう
(生徒は授業の反映の鏡です)
3. 楽しくない内容や事柄はスキップしましょう
(嫌々教えたものは身に付きません)
4. 授業を通して夢や人生を語りましょう
(我々は英語の教師ですから)

教師が夢を持って楽しむ姿勢が、全ての生徒に刺さるものです。

本資料は「教科書発行社行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

English cafe Vol.9
Special edition 非売品

2025年6月30日 発行
<https://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03-5684-6111

発行 開隆堂出版株式会社 東北支社

東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-10-7
サンライン第66ビル5階 ☎022-742-1213